

# We Love

インターネットで見つけたCOOL&FOOLが大集合

# Internet People

このコーナーは、インターネットピープルの皆さんが作るページです。話題のインターネットピープル、こぼれ話、CU-SeeMe大会など、読者の皆さんの投稿と編集部が取材した旬の話題を提供します。投稿分にはダイレクトプラスが発行されます。ジャンジャン投稿して豪華賞品をGetしよう。Let's Access!!

## Shouting!



今月の高座

中学1年生  
国島卓也くん

僕も4月からインターネットを始めました。これまではお兄ちゃんにやらしてもらってたんだけど、入学祝いに自分の登録をもらいました。最初のうちはいろんなホームページを見ることがとてもおもしろかったのですが、しば

くするとそれも退屈になってしまいました。せっかく自分のアドレスをもらったのだから、電子メールもやりたいけど、友達は誰もやっていないし、出す相手がいません。どうしたらいいのでしょうか？



春から新社会人  
Keita Oshimaさん

春から就職先でコンピュータを扱うことになり、インターネットを始めましたが、接続の設定に苦労した挙げ句、プロバイダーからのお知らせ以外には誰からもメールが来ません。せっかく世界中のコンピュータと接続しているのに...。自分の「ネットワーク」の狭さを実感してしまいました。



電子メールソフトを起動させて、新着メールが一通も来ていないときはさびしいものですね。身近な相手がいなければ、メーリングリストに入るのはどうでしょうか？ 検索サービスでメーリングリストを探して、自分が興味のあるものに入るといいでしょう。また、思い切ってホームページを作ってしまうのもいいかもしれません。ホームページに自分のメールアドレスを出して、見てくれた人から感想などが来るといいものですよ。 (編集部)



# Chatting!

声を聞かせて



海外出張に初めてノートパソコンを持って行き、宿泊先のホテルから接続に成功しました。今回の出張のためにプロバイダーに新たに加入し、モジュラーやケースなどの小物も購入しました。時差のある国で、会社の人間とコミュニケーションがとれることがこんなにも便利だとはいかげでホテルの電話代が高くてビックリ...



4月に私が通っている神戸大学のコンピュータシステムが新しくなり、全学生にメールアカウントが配布されました。少し経ってパソコンルームに行くと、そこにはインターネットにハマった学生がたくさんいました。その人たちは、まだ「サーチエンジン」というものを知らず、ファッション雑誌や人から聞いたアドレスを打ち込んでいるという状況でした。もう一つ

気づいたのはインターネットに無関心な法学部生の多さです。まっさらのパソコンが置いてある部屋を見向きもせず素通りしていくのです。こんな楽しく、便利で、気軽なものを使わないとは...、私には信じられないことでした。



まだパソコン初心者ですが、すごい成果がありました。付録のCD-ROMからリアルオーディオのインストールに成功したのです！私は音楽が好きで、「パソコンを通して音楽が聞けたらな」と思っていました。もちろん、これまでもリアルオーディオのダウンロードには挑戦しましたが、電話回線ではいつも失敗ばかりでした。今回やっと成功したので、紹介されていた「Tunes Com」に接続してみたところ、パッチリ音楽が楽しめました。音質には不満

が残りますが、好きな曲だったらCDを買ってしまうので、これで満足です。と、ということで、すごく初心者の話でしたが、まずは報告まで。



娘(小3)の担任の先生がパソコンを購入し、インターネットを始めようとしています。田舎の小学校なので大変よいことだと思い、私もサポートすることにしました。現在はプロバイダー選びで、接続のほうはまだですが、毎日娘が先生からの質問の手紙を持ってきて、手紙で回答をしています。なんだかうちの娘は電子メールのPOP兼SMTPサーバーのように錯覚させられます。バクしないうちに接続にこぎつけたいと思っています。(大串春夫)



# MyHomePage

自薦ホームページPRコーナー

大規模災害に備えて

URL <http://plaza7.mbn.or.jp/mic/>

私は「報道ネットワーク」という災害時を想定した情報のターミナル作りを目指している者です。「いざ」というときのため、今から準備しておく必要性を感じています。いつ、どこで起こるか分からない大規模災害が発生したときには、1つでも多くのサイトにリンクさ



れ、情報が集中されることによってインターネットの真価が発揮されると考えます。



「生」の香港情報を

URL <http://www.geocities.com/Tokyo/Flats/3694/>

「香港返還ドキドキ日記・現地毎日レポート」では返還間近の香港の様子を毎日衝撃レポート中です。



わかりにくい略語を集めた

URL <http://www1.nisiq.net/cpulot/>

電算業界には特に多いのですが、英語語の増加には目を見張るものがあります。つまり、それだけ知らない単語が増えるわけで、10年ほど前にふとしたことから仲間内で略語辞典

をワープロで作ったことがありました。当時でも3,000項目近い量を収録していたのですが、最近になって身内だけで使うのがもったいなくなって、HTML化して私のホームページで公開を始めました。電算用語に限定しておりませんので、ジャンルを問わず、見つけ次第入力するようにしています。ちょっとした辞書代わりにお使いください。



私の「お国自慢」をどうぞ

URL <http://www.sawara.com/>

私が住む千葉県佐原市には、地元を扱ったホームページが公式・非公式を問わずまったくありませんでした。そこで自分で作ってしまいました。豊かな自然と歴史ある佐原市を画像を使って紹介しております。特にこれから暑くなる季節には「水の里 佐原」や「水生植物園」のコーナーなどがお勧めかと思えます。



## 1,000軒以上のラーメン屋さんを紹介する

「東京のラーメン屋さん」のオーナー 大崎裕史さん



Q: ホームページはどんなきっかけで始めたんです?

大崎: ラーメンは子どもの頃から好きなんです。今38歳だから20年くらい前ですか、『アングル』という雑誌がうまいラーメン屋の情報を載せていて、それを見てよく食べ歩いてました。それがきっかけで、30歳くらいになってメモでもしようかなと思ったんです。そのころは雑誌の特集にもひんばんに出るようになって、その気になったというもありますね。そして3年くらい前から、ホームページにというわけでもなく、エクセルでデータを作り始めたんです。そうしたら、うちの会社(飛竜企画=広告代理店)でホームページを開くことになって、何か遊びの要素を盛り込んだものはないかということで、それなら私のラーメンを載せてくださいと言ったのがスタートです。

Q: 今は1,000軒を超えているそうですが、スタートは何軒くらいだったんですか?

大崎: 最初は250軒くらいだったと思います。「ドラゴン拉麺会」とあるように、最初はうちの会社のラーメン好きな社員にも書いてもらおうと思っていたんですが、なかなか協力してもらえなくて、しょうがないから自分でやるしかないということで、

今の1,000軒は全部私が食べ歩いたものです。ホームページを始める前は、年間250杯くらいでしたけど、去年は550杯、今年は今のところ250軒くらいですが、700杯を目指しています。

Q: 700杯というと、1日2杯の計算になりますけど...

大崎: 大食いというか、そこそこ食べるほうで、昼を普通に食べたあとでも、いつでも食える状態になっていて、おやつみたいな感覚で食べていますね。1回食べに出かけると、3杯は食べるようにしています。同じようにラーメンのホームページを開いている大村(ジャンボ)さんは、1日9杯食べたことがあるそうですが、私は最高7杯です。まあ、抜こうとは思いませんけど(笑)。営業で歩いていて、ここは知らないなというので入ることが昔は多かったです。

Q: ホームページを開いてからは、仕事で食べに行くこともあるんですか?

大崎: いや、仕事に影響がないようにというのは気をつけています。管理職(部長)

「東京のラーメン屋さん」(略して「とらさん」)は、大崎裕史さんがひたすらラーメンを食べ歩いて作り続けているデータを元にしたホームページだ。ラーメンのホームページはほかにもいろいろあるが、紹介されている店の数1,000軒以上というのは、ダントツの規模と迫力。僕もラーメンは大好きで、新しい店開拓の参考にしてはいるが、1,000軒のラーメンを食べ歩いた人というのはいったいどんな人なのだろう。大崎さんの勤める目黒区、大鳥神社近くの広告代理店・飛竜企画を訪ねてお話をうかがった。

ですし、ラーメンを食べるために勤務時間中に外出することはありません。仕事が忙しくて、そんなことしている暇はないんです(笑)。食べるとメモ程度は書いておくんですけど、今非常に忙しくてメモが溜まってしまって、どうしようかと思っています。

Q: ホームページを作るのも、勤務時間以外なんですか?

大崎: もちろんそうです。夜に書くことが多いですね。ページのレイアウトは会社のコンピュータに詳しい人にやってもらっているので、僕はコンテンツを作るだけです。フォーマットができていて、それに書き込めば、アップロードできるようになっています。私の役割は、プロデューサーというところがあるんですが、こんな検索ができないとか、地図があるからうまく使えないとか相談したり、向こうからこんな技術があるけど何か使えないとか、いろいろやりとりをしながら作っています。

Q: 製麺所の名前が書いてありますが、取材はするんですか?

大崎: 話はなるべく聞くようにしてますけど、どこ製の麺かとかは聞かないで、のぞ

いて調べます。そういうのを聞くと、「お宅なに?」って、けげんな顔をされるんですよ。あくまで一般客ですということで、基本的には営業時間や休みを聞いて、あとは、この店はあの店と似ているなど思ったときに、「どちらで働いていたんですか」というような質問はできるだけするようにしています。私自身としては、そういうラーメン屋さんの系統に一番興味があるんです。その人が好きなほかのお店も聞きたいんですが、あまり教えてくれないですね。

Q: 単行本にするような計画はあるんですか。

大崎: 考えています。ただ、どういうふうにするか難しいところですね。とりあえず、CD-ROMとして出そうという予定はあります。HTMLをブラウザでそのまま見てもらうのが一番手取り早いんですが、それだとホームページと同じだから売れるのかなというのがあって、どうしようかなというところですね。私としては、お金も時間もつき込んで苦労しているので、会社の仕事としてCD-ROMを出して、実績を上げて昇給してもらおうとか、できれば印税ももらいたいというのがあります(笑)。

Q: 700杯というと食費だけでもかなりかかりますね。自腹を切っているんですか?

大崎: そうなんです。平均700円として、1年で50万円。それと、私は車の運転ができないので、タクシー代もけっこうかかります。勤務時間中は時間を無駄には使えないということで、タクシーをけっこう使いますし、夜遅くなると、タクシーしかなくなることもよくあります。特に、東京の西のほうは駅から遠いラーメン屋さんが多いので、お金がかかりますね。

Q: 最終的には何軒くらいを目指していますか?

大崎: もうすぐ私も40歳ですし、高血圧気味で医者にはラーメン食べるのを止めるようにも言われているので、700杯も食べるのは今年が来年までにして、そうすると



◎ 完食したお店には「完食マーク」が与えられる「東京のラーメン屋さん」のレポートはけっこう辛口?  
 URL <http://www.hiryu.co.jp/ramen/index.html>



1,200軒くらいになりますから、あとは、3年に1回くらいのペースで回って、新しいところができたら行ってみるくらいにしたいですね。それなら年間400軒くらいでよくなりますから。ホームページを始めたときに、ラーメンのページでは一番になりたいというのがあって、まず軒数では一番になることが1つの目標だったんです。さらに、情報を充実させるのはどういうことかなというのをいろいろ考えて、やっぱり極めたい、東京だけでまずある程度のところまで極めてしまおうというので、東京に限って増やしていったんです。

Q: ひとことで1,000軒と言っても、なかなかできないことですよね。

大崎: そうですね。400軒くらいが1つの壁で、500軒くらいまでが非常につらかったですね。ホームページで200軒くらいを紹介している人に、「あなたはまだ幸先にラーメンを食べられると思うけど、その先400軒が1つの目安です」という話をしたんです。そのくらいまでは雑誌に載っている店を順に回っていけば増やせるけど、そこからがづらいんです。そのときは、ホームページでうまい店があったら紹介してくれと呼びかけたりしました。雑誌に載っている店は、もうすでにほとんど行っちゃってます。ぴあランキングの100店の中で、98軒行ってますから(笑)。1,000軒まで行

けたのは、ホームページの読者からの情報と励ましのメールが大きいですね。ホームページやってなかったら、1,000軒なんて絶対に行けなかったと思います。

Q: それだけ回っていても、新しいうまい店というのは見つかるんですか?

大崎: ええ。400軒を超えたあたりで20軒くらい続けてまずい店にぶつかると、いくら何でももううまい店はないよと思っちゃいますね。でもそのうちに、こんなうまい店は知らなかった、どうして雑誌にも載っていないんだろうというのが必ずあるんです。すると、よしもっと探そうと意欲が湧いてきて、はずれも多かったですけど、がんばれました。今なら、中野の「青葉」とか「香門」とか、新しい店でうまいところがあって、私もいろんな人にすすめています。「香門」の人に話を聞いたら、喜んで話してくれました。ですから。できるだけ空いているときに行って話をするようにします。そんなお店を発見できたときには、まだまだ続けようと思いますね。

Q: 僕も、ラーメン好きだと思っていましたが、そんなこととでもおこがましくて言えないという感じがしてきました。お身体を大切に、これからもおいしい店を紹介してください。

(取材・文/鈴木康之)

# Research!

インターネット何でも調査隊が行く!

「インターネット何でも調査隊」は、ニュースなどでは解決できないインターネットについての素朴な疑問や関心を、あなたに代わって調査します。

## 公立小学校のインターネット接続 実際に使われているのか?

### 今回の調査依頼

以前、横浜市の小中学校にインターネットが引かれたという記事を読みました。実際に活用されているのでしょうか? というのも、私の息子(小5)はインターネットをやっている私に見向きもしません。せっかく学校にインターネットを引いても、子供が興味を示さなかったらもったいないですね。現実はどうなのでしょう? (徳丸さん)

神奈川県横浜市は、市立の小中学校をすべてインターネットでつなぐことを目指して、昨年9月から積極的にインターネットを学校に導入している。なかでも市立新井小学校は、横浜市のインターネット活用促進モデル事業のインターネット・モデルスクールで、インターネットに専用線で接続したコンピュータ4台を生徒に開放している。横浜市保土ヶ谷区にある同校に足を運び、青木勇先生に話をうかがった。

「インターネットの専用線が引かれたのは昨年の11月で、横浜市のサーバーに64Kbpsで接続しています」

では、生徒たちはインターネットをどのように利用しているのだろうか?

「授業の資料集めに使うことが多いですね。休み時間には、週末に行く釣りの情報を調べてプリントアウトして持って帰るなどして、趣味の情報を集めたりしているようです。Yahoo!で検索するときも、キーワード検索は結構使っているみたいですが、ディレクトリーをたどって

いく検索は子供たちにとっては使いにくいみたいですね」

### インターネットは教室の人気者

授業での利用の実際を見せてもらうために、田中公明先生の5年生の理科の授業におじゃました。

「今日は天気予報をしてみようということで、グループごとにインターネットで資料を集めています」(田中先生)

コンピュータの数に限りがあるため、クラスを半分に分けて、残りのグループは資料集めの方法を打ち合わせている。田中先生が交代を指示した途端に、作戦会議をしていたグループの子供たちがわれ先にとコンピュータに集まり、コンピュータの前は子供たちでいっぱいになる。ここで子供たちの声を聞いてみると...

「いろんなことが書いてあっておもしろいよ。慣れたら簡単になったよ。探すのが難しい」



● 慣れない手つきでマウスを操る。

● 右が青木勇先生。



なかには、「全然(コンピュータに)触れなくてヤダ」、「今は休み時間もみんながやっているから、みんなが飽きるころにやるつもり」なんて声も聞かれた。

### お父さんと学校との距離を縮めたい

「これからはよその学校とのコミュニケーションもやってみたいですね。また、子供たちのお父さんの中にインターネットを使っている方が多いようで、URLを聞かれることもありますね。学校って、どうしても子供とお母さんとの結びつきが強いのですが、インターネットでお父さんが学校に関心を持ってくれるのはとてもうれしいです。このようなオンラインとオフラインの両方が使える『狭い』範囲のネットワークを育てることもインターネットの使い方の1つではないでしょうか」(青木先生)

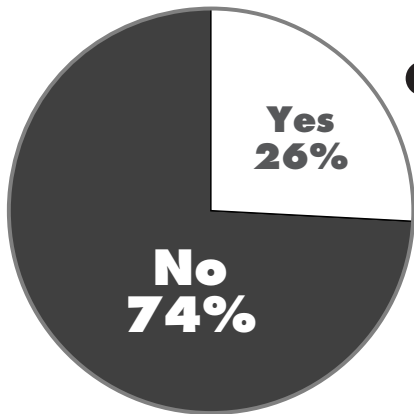
コンピュータの数をもっと増やしてほしいと言う青木先生には、インターネットでやりたいことが、まだまだたくさんあるようだ。帰り際、パソコンルームから聞こえる生徒たちの楽しそうな声が廊下にまで響いていた。



● インターネットを使った理科の授業のようす。中央が田中公明先生。



● 新井小学校のホームページ  
URL <http://www.arais.city.yokohama.jp/>



インターネットマガジンのサーバーでは、社会のさまざまな問題や現象について、インターネットを利用して意見を募る「世論調査」のコーナーを設けています。5月の結果はこのようなになりました。皆さんからは以下のようなご意見が寄せられました。これ以外のご意見はWWWサーバー上で公開しています。ぜひご覧ください。

### Yesの意見から

あくまで一定額まで。無制限というわけにはいかない。また、一般客と企業、団体は分け

### ① 次回のテーマは...

青森県の三沢市議会で、議員が議会に出席する際のネクタイ着用を義務づける議案が可決されました。選挙で選ばれた議員に対して服装規定を設けることについて、あなたはどうのように考えますか？あなたのご意見をお聞かせください。

### 5月の結果発表!

## 銀行の経営破綻。預金者保護のための公的資金導入はやむを得ないか？

で考えるべし。 (31歳 会社員 男性)

ある程度はやむを得ない。「銀行は潰れる」という印象を国民に与えると、人は銀行に預金しなくなり、日本のお金の流通が変わってしまうから。 (24歳 男性)

もし破綻した銀行に自分の預金があったらと考えると、このような仕組みがないと困る。政治家や官僚の遊興費に使われるより、困っている誰かのために使われるのなら有効な税金の使われ方に違いない。 (27歳 技術者 男性)

### Noの意見から

一般国民に負担させるのはどうとも思わないが、いゆる危ない銀行でもとりあえず利率のいいところに入っておこう、どうせ大丈夫なんだから、といった考えにさせてしまいそうに

思える。 (19歳 大学生 男性)

その前に銀行の経営責任を厳しく追及すべきだと思う。 (32歳 会社員 男性)

もし公的資金導入がなければパニックが起こるでしょう。しかし、これは日本が真に資本経済国家として成長するためには欠くことのできない「痛み」ではないでしょうか？これを続ける限り日本の国際的信用は低下するばかりです。なにせ、はっきり言って「放漫経営」を国家が保証してくれるのですから。住宅ローンをかかえ、真面目に働くのが馬鹿らしくなる国、それが今の日本です。 (35歳 会社員 男性)

政治的解決をする前に、まず、法的解決をすべし。 (38歳 自営業 男性)

## Let's Access!!!

URL <http://home.impress.co.jp/magazine/inetmag/yes-no/>

次回のテーマ

## 議会での服装規定は是か非か？

## 投稿大募集!

「We Love Internet People」は読者の皆さんの投稿で成り立っています。このコーナーをつくってくれる皆さんのメールを、編集部ではお待ちしております。どしどしメールをお寄せください。

### Shouting!

- ・声を大にして言いたいこと
- ・ に物申す!
- ・ に質問

### Chatting!

- ・あなたのインターネット体験記
- ・あなたのまわりで起こったできごと

### My Home Page

- ・あなたの自慢のホームページ紹介

### あの人に会いたい!

- ・「あの」ホームページのオーナーを紹介して!

### Thinking!

- ・世論調査で取り上げてほしいテーマ

このほかにも、おもしろデジタルカメラ画像、私のまわりにはこんな人がいます、などなど、どんなことでも結構です。

宛て先はすべて [ip-box@impress.co.jp](mailto:ip-box@impress.co.jp) までお送り下さい。投稿文にはダイレクトプラスを発行します。詳しくは422ページをご覧ください。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)